

法学部A方式Ⅱ日程・国際文化学部A方式
キャリアデザイン学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～25	日 本 史	26～42
世 界 史	44～59	地 理	60～68
数 学	70～75		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. 数学については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

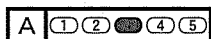
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

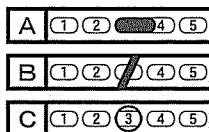
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

6. 問題冊子のページを切り離さないこと。

(世界史)

〔I〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

古代中国においては豪華な埋葬(厚葬)を批判し、質素な埋葬(薄葬)を良しとする議論(薄葬論)が行われてきた。古くは墨家が経済的浪費という観点からこれを論じているが、その議論は儒家⁽¹⁾によって深められ、とくに「厚葬を行えば墓が盗掘される」ということが薄葬を良しとする大きな根拠とされた。そしてこの議論は、後漢の初めの王充に至って理論的に完成されたと言われている。こういった埋葬の仕方をめぐる議論の過程で最も強く批判されてきたのが秦の始皇帝陵である。

秦は法家の思想に基づく改革や巧みな外交により強国となり、始皇帝に至って天下を統一し、春秋時代から戦国時代にわたる分裂状態に終止符を打った。自ら皇帝という称号を作り出し、唯一無二の支配者となった始皇帝は都の東南に空前絶後の巨大陵墓を造営させた。

この始皇帝陵に対する批判の端緒となったと言われるのが、前漢の賈山である。賈山が活躍した文帝の時代は、呂后専制下の混乱を経て新たな帝国の体制が模索された時代であった。帝国としての完成は文帝の孫の武帝の時代まで待たなければならなかったが、文帝の時代は「儒学を支配理念の中心に据えた中央集権体制の構築」に向けての準備段階にあり、儒学を思想的基盤とする人達によって様々な議論が展開された。その内の一人である賈山の始皇帝陵批判は「至言」という文章の中で述べられているが、その中では始皇帝の行き過ぎた法治主義や収奪・使役が広く批判されており、始皇帝陵への批判もそのうちの一つに過ぎない。つまり、「至言」はそもそも秦を比喻に用いることで国家の在り方を論じた文章であり、その中での始皇帝陵批判も儒家的な薄葬論とは全く異なるものであった。

ついで始皇帝陵への批判を完成させたと言われるのが劉向である。劉向は前漢末期の成帝の時代に活躍した儒者であるが、成帝が巨大で豪華な陵墓を造営しようとしたため、文帝が盗掘されないために嚴重に埋葬されることを望んだ際に張枳之が「質素な埋葬にすれば盗掘の心配はない」と諫めた故事を引き、成帝を諫め

ている。そして堯・舜・禹や殷の湯王、周の文王・武王といった聖人が薄葬によったことを述べ、さらに実際に盗掘にあった例として呉王闔閭、秦の五人の王、始皇帝の陵墓を挙げ、始皇帝陵については盗掘と消失の経緯について詳細に述べている。この時に劉向の展開した議論は儒家の薄葬論の一つの到達点と考えられている。

前漢における厚葬の風潮は武帝の時代から盛んになったと言われ、武帝の時代の楊王孫という人物はあえて貧民や奴隷並みの極めて簡素な埋葬を望み、「礼にかなわない厚葬に走る世の風潮を矯正したい」との意味の言葉^(h)を述べている。武帝の時代に漢帝国の中央集権体制が完成されると、官僚システムや人民に対して皇帝権は強大になり、それとともに皇帝の身近、とりわけ後宮に集まった宦官や皇后⁽ⁱ⁾の一族が大きな権力を持つようになっていった。一方、帝国としての安定をうけて、彼ら権勢家のもとには多くの富が集中した。このような趨勢は止まるところを知らず、やがて皇后の一族による篡奪⁽⁴⁾にまで至ることになるが、劉向は早くから国家的危機として危惧しており、代表的著作である『列女伝』『新序』『説苑』の中にも後宮の奢侈を戒める内容の文章が見られる。劉向の厚葬に対する批判もまたこれら後宮を背景に権勢と富裕を誇った人々への批判であり、儒学の価値観や道徳に従う官僚勢力に権力を取り戻すことで国家を再建したいとの思惑から出たものと考えられる。

こうして見ると、始皇帝陵への批判も儒学に基づく国家の構築という大きな潮流のなかで時々の情勢によりながら展開されてきたものであることが分かる。厚葬についていえば、劉向が例に挙げているように始皇帝のみが行ったものではなく、春秋・戦国の君主の価値観からすれば特異なものではなく、とくに秦王にとっては伝統的なものであったと考えられる。ならば、天下を統一し唯一無二の存在となった始皇帝からすれば、空前絶後の巨大な始皇帝陵の造営も当然のことだったのかもしれない。

世界史

問1 下線部(1)について、墨家に関する以下のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。正しいものの合計数を解答欄にマークせよ。

- ア 墨子は孟子の学説を批判した。
- イ 『墨子』非攻篇では、侵略戦争の不正義性を論じている。
- ウ 『墨子』博愛篇では、自分と同じように他人を愛すべきであると論じている。
- エ 墨家は秦の統一とともに衰えたが、前漢中期になると勢いを取り戻した。

問2 下線部(2)について、秦の始皇帝(秦王時代を含む)の下で行われたこととして正しいものを、ア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 韓非の建言に従い焚書坑儒を行った。
- イ 天下統一後、文字を隷書に統一した。
- ウ 新たに南海・桂林・象郡の三郡を設置した。
- エ 李斯が郡県制を発案し、天下統一後に全国に施行した。
- オ 北部国境沿いに焼きレンガ造りの堅牢な万里の長城を建設した。

問3 下線部(3)について、漢の武帝の時代に関する記述として正しくないものを、ア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 敦煌郡が設置された。
- イ 五銖銭を鑄造させた。
- ウ 五経博士が設置された。
- エ 李広利が大月氏に遠征した。
- オ 司馬遷が『史記』を編纂した。

問4 下線部(4)について、漢王朝から帝位を篡奪した王莽と彼の建国した国に関する記述として正しいものを、ア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 洛陽に都を移した。
- イ 儒学を重んじ、鄭玄を重用した。
- ウ 紅巾の乱軍によって殺害された。
- エ 周を理想とし、国号も周とした。
- オ 讖緯思想に基づく予言を利用した。

問5 下線部(a)について、下記の文は儒家を代表する孟子が君主観を述べたものである。空欄に入る適切な漢字一字を解答欄に記入せよ。

力を以て仁を仮る者は覇たり。

徳を以て仁を行う者は たり。

問6 下線部(b)について、孝公に仕えて変法と呼ばれる改革を行った衛出身の政治家は誰か。その名前を解答欄に記入せよ。

問7 下線部(c)について、張儀らが主導した、秦が六国各国との間に個別の同盟を成立させることで六国間の同盟を崩す外交政策は何か。その名称を解答欄に記入せよ。なお「策」は省略しても構わない。

問8 下線部(d)について、春秋時代という時代名は孔子が編纂したとされる『春秋』という年代記に因んでいる。この『春秋』という書物はどの国の年代記か。その国名を解答欄に記入せよ。

問9 下線部(e)について、戦国時代の始まりは韓・魏・趙の三国の成立によるとされることが多いが、それまで韓氏・魏氏・趙氏が仕え、三氏によって分割された国は何か。その国名を解答欄に記入せよ。

世界史

問10 下線部(f)について、孝公以来、始皇帝に至るまで秦の都だった都市は何か。
その名称を解答欄に記入せよ。

問11 下線部(g)について、文帝の時代と武帝の時代の間に行った大規模な反乱
は何か。その名称を解答欄に記入せよ。

問12 下線部(h)について、礼による人々の教化を重視し、韓非や李斯にも教育を
施した思想家は誰か。その名前を解答欄に記入せよ。

問13 下線部(i)について、皇后の一族のことを何というか。その名称を解答欄に
記入せよ。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

東南アジアという地域世界は、自然や地理を反映した人の移動と定住から特徴づけることができ、インド、中国、⁽¹⁾イスラーム文化の影響をうけつつ独自の発展を遂げてきた。港市を拠点とする交易ネットワークの形成もその特徴のひとつである。港市とは内陸部や周辺海域で産出される産物の積み出し港として、河川の下流や海岸近くの河口に形成された港である。港市の支配者は、後背地から集積した商品作物を外来の商人と交易し、あるいは他の港市に送り出すことで富を得た。彼らはまた、交易を通じて外来文化を地域に仲介する役割も果たし、文化的、宗教的威信をもつようになった。こうして富を蓄積し、文化的、宗教的基盤を得た支配者が王権を形成し、港市国家もつくられた。

3世紀ごろには 半島に国家が存在していたことが知られており、中国の文献では「扶南」という名称で呼ばれている。この扶南の外港であるオケオは東南アジアの交易ネットワークの中心となり、7世紀ごろまで発展した。

5世紀には、扶南を拠点として 半島中部を横断して西へ進むルートと、マラッカ海峡を通過するルートがひらかれた。交易ネットワークの新たな要衝となったマラッカ海峡では、やがて 王国の が交易の中心として栄えていったが、この交易ルートの変化をうけて扶南は没落していった。また、マラッカ海峡ルートの繁栄に伴って、 半島西部に位置し、のちに鄭和の南海遠征の補給基地ともなるマラッカも、港市として栄えていった。

⁽³⁾マラッカはインドや西アジアのムスリム商人と結ぶことで強力な交易圏を作り上げていったが、このことはインドネシアにも影響を与えた。ジャワ島では13世紀末にヒンドゥー国家である 王国が建国され、1420年代には を支配し、同地の中国人商人勢力を吸収して明朝との交易を盛んに行い繁栄していた。しかし、マラッカの商業圏に組み込まれたドゥマクなどの北部の港市にジャワ島における海上交易の中心が移ったこと、さらに明朝の海禁政策により中国との交易が後退したことにより、 王国は衰退し、やがて滅亡した。

16世紀には、ヨーロッパ諸列強が東南アジアに進出し、交易でより優位な地位を占めるために各地の占領を進めたが、このことが東南アジア世界に様々な変動

世界史

をもたらしていった。

まず、1511年にポルトガルがマラッカを占領した。ポルトガルは香辛料貿易の独占を図ったが、すでにインド洋での交易で活躍していたムスリム商人はこれに対抗し、マラッカ海峡ルートを避け、インド洋から 海峡をぬけてジャワ海に入る交易ルートを盛んに利用するようになった。その結果、スマトラ島北部の 王国はポルトガルに対抗するムスリム商人の貿易拠点となり、 海峡に面した 王国は胡椒生産と交易で繁栄した。

一方、スペインは、西回りでモルッカ諸島を目指していたマゼランの率いる艦隊が 年に東南アジアに到達していたが、その後、⁽⁵⁾ポルトガルとの間で結ばれた条約によりフィリピン諸島を勢力下に置くことになった。⁽⁶⁾そして16世紀後半にはフィリピン諸島を足場とする交易体制を東南アジアに確立し、フィリピンの植民地化を進めた。

1581年にスペインからの独立を宣言したオランダは、1602年に東インド会社を設立し、東南アジア方面にも進出させ、喜望峰からインド洋を經由して 海峡を通りバタヴィアに至る新しい航路をひらいた。そして、⁽⁷⁾バタヴィアを中心にインドネシアの広域に植民地を形成した。

ヨーロッパ列強は東南アジア全域で通商を拡大しながら、19世紀を通じて東南アジアの植民地分割を推進していった。

問1 空欄A～Iに入る最も適切な語を、以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-----------|--------------|
| a アチェ | b アンコール |
| c インドシナ | d オケオ |
| e カンボジア | f 交州 |
| g シヤイレンドラ | h シュリーヴィジャヤ |
| i スンダ | j 大越 |
| k チャンパー | l ドヴァーラヴァティー |
| m ドンソン | n パガン |
| o パレンバン | p バンテン |
| q ボロブドゥール | r マジャパヒト |
| s マラッカ | t マレー |
| u ラオス | v 1517 |
| w 1521 | x 1529 |

問2 下線部(1)に関連する記述として正しいものを、a～dのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 東南アジア世界では、大陸部と島嶼部のいずれでもモンスーン気候のもとで一帯が熱帯雨林に覆われており、稲作が発展し稲作文化圏が成立した。
- b 東南アジア世界にはインド文明の影響が強いことは、ドンソン文化の特徴を示す青銅製の銅鼓にサンスクリット語が刻まれていることから確認できる。
- c 東南アジア世界が地中海、南アジア、東アジアの文明の接点であることは、オケオの遺跡から漢の鏡、インドの神像、ローマの金貨が出土していることから確認できる。
- d 東南アジア世界の形成に大きな影響を及ぼした東西貿易は7世紀頃に大いに発展したが、これは東南アジア地域で最も航行が困難とされた南シナ海に多くの中継港が整備されて安全な航行が可能になったためである。

世界史

問3 下線部(2)に関連する記述として正しいものを、a～dのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 東南アジアのイスラーム化が進む一つの重要な契機となったのは、マラッカの王がイスラーム教に改宗したことであった。
- b 16世紀後半、ジャワ島中・東部にイスラーム国家として成立したマタラム王国は、商品となる農作物に乏しく、中継貿易を主な経済基盤とした。
- c 8世紀頃からムスリム商人が東南アジアに進出したことから、東南アジアの港市国家は交易活動の推進を目的に、9世紀にはつぎつぎとイスラーム国家になった。
- d フィリピン諸島にはイスラーム教よりキリスト教の伝来の方が早く、宣教師によって厳しいキリスト教化が進められたため、イスラーム教の浸透は見られなかった。

問4 下線部(3)に関連する記述として正しいものを、a～dのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 煬帝の命により南海遠征を実施した。
- b 南海遠征はアラビア半島や東アフリカにまで及んだ。
- c ポルトガル勢力に対抗し、マラッカの占領を阻止した。
- d ムスリムであったが改宗し、東南アジアへの儒教伝播に大きく貢献した。

問5 下線部(4)に関連して、ポルトガルが東南アジアへの進出を積極化した背景には、ポルトガルとスペインとが海外領土分割について条約を結んだことがあった。この条約の締結年と条約名をそれぞれ解答欄に記入せよ。

問6 下線部(5)に関連して、マゼランは東南アジアで死亡したが、死亡した土地は現在どの国にあるか。a～dのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a インドネシア
- b 東ティモール
- c フィリピン
- d マレーシア

問7 下線部(6)に関連する記述として正しいものを、a～dのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 教皇子午線を東方に動かした。
- b 教皇子午線を西方に動かした。
- c ポルトガルのブラジル領有が確定した。
- d 東半球における勢力範囲の境界線を確定した。

問8 下線部(7)に関連する次の文章について、空欄A～Gに入る最も適切な語を下記の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

オランダ領東インドという呼称に代わり「インドネシア」が定着したのは、インドネシア各地からオランダに留学した学生たちが、自らの親睦組織を「東インド協会」から「インドネシア協会」に改称したことが契機となった。オランダから帰国した留学生たちは、インドネシア各地で研究会を組織し、その一人であった がバンドンで開催した研究会が母体となって が結成された。

は、ひとつの祖国、民族、言語を掲げたが、その影響力を警戒するオランダの大弾圧により解散を余儀なくされた。オランダにより逮捕されていた を解放したのは、1942年にオランダ領東インドを占領した日本軍であった。日本軍はアジアの解放という大義名分のもと、情報収集や民心の掌握のために民族運動家の協力を得ようとし、 もこの機会を利用して民族解放を実現しようとした。第2次世界大戦での日本の敗戦直後、 を指導者に の成立が宣言された。しかしオランダは宣言を認めず軍事介入したが失敗し、 年に は独立を達成した。

は 年に 会議をバンドンで主宰し、同会議で を提唱した。

世界史

[語群]

- | | | | |
|---|-----------|---|------------|
| a | アジア・アフリカ | b | インドネシア共和国 |
| c | インドネシア国民党 | d | インドネシア独立同盟 |
| e | コロンボ | f | シハヌーク |
| g | スカルノ | h | スハルト |
| i | 非同盟諸国首脳 | j | 平和五原則 |
| k | 平和十原則 | l | ホー＝チ＝ミン |
| m | 1946 | n | 1949 |
| o | 1953 | p | 1954 |
| q | 1955 | | |

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

第2次世界大戦は、ドイツ、イタリアによる勢力拡大を経て、1939年のドイツのポーランド侵攻から始まった。⁽¹⁾翌1940年には、ドイツは北欧に侵攻し、その後、⁽²⁾パリを占領した。ヨーロッパの戦乱は、さらに独ソ戦争で東に拡大した。またアフリカ北岸ではイタリアが占領地を拡大した。アジアでは日中戦争を進めてきた日本がインドシナ半島へ軍を進め、さらにアメリカ領のハワイへの奇襲攻撃を行った。こうして60か国以上が連合国と枢軸国に分かれて戦う文字通りの世界戦争となった。

戦争が進む中で、1941年8月に発表された大西洋憲章では、ナチス独裁体制の廃絶とともに領土不拡大、民族自決、民主主義、自由貿易などの原則が宣言された。これが戦後の国際連合を中心とする国際体制につながっていく。

他方で連合国側の軍事的優位が明白になった戦争後半からは、連合国側の主要国間で戦後処理をめぐる対立が起こるようになってきた。ドイツの降伏が迫る1945年2月に開かれた米英ソ首脳によるヤルタ会談では、⁽³⁾ポーランドとバルカンの問題で英ソの対立が顕在化したが、その一方で戦後の国際体制についての合意も成立した。ドイツの無条件降伏後の同年7月のポツダム会談では、ドイツと日本の戦後処理をめぐる米ソの対立が明らかとなった。⁽⁴⁾この対立が、戦争中に開発された原子力兵器を大きな要素としながら、⁽⁵⁾戦後世界を長く規定することになる冷戦を生み出すことになる。

世界史

問1 下線部(1)に関連する次の文章について、空欄 a～c に入る最も適切な語を下記の語群Aから、空欄ア～オに入る最も適切な語を下記の語群Bから選び、その数字を解答欄にマークせよ。

ドイツでは大統領 の下で、1933年にヒトラー首班内閣が成立した。ナチスは総選挙を経て勢力を強め、全権委任法を制定して独裁体制を確立した。その後、ヴェルサイユ体制打破を掲げ、1935年には住民投票の結果を受けて を編入して領土を拡大し、さらに1936年には非武装地帯とされていた に軍隊を進駐させた。1938年になるとドイツは、 を併合し、さらにズデーデン地方を英首相 ，仏首相 の承認を得て獲得した。

一方、イタリアは1936年にアフリカ大陸で を併合し、1939年にバルカン半島で を併合した。

問2 下線部(2)に関連する次の文章について、空欄 a・b に入る最も適切な語を下記の語群Aから、空欄ア～エに入る最も適切な語を下記の語群Bから選び、その数字を解答欄にマークせよ。

ドイツのポーランド侵攻の直前に締結された独ソ不可侵条約は、世界に衝撃を与えた。この条約を調印したのはソ連代表 とドイツ代表 である。この条約には、その後長く存在が否定された秘密条項が付されており、これに従いソ連はポーランドの東半分を占領した上で、1939年秋には領土の割譲を求めて と開戦した。さらにロシア革命後に独立していたバルト海に面するタリンを首都とする ，リガを首都とする ，カウナスを臨時首都とする に軍を進駐させた。

問3 下線部(3)に関連する次の文章について、空欄ア～オに入る最も適切な語を下記の語群Bから選び、その数字を解答欄にマークせよ。

1945年2月にヤルタで開かれた会議で米大統領ルーズヴェルト、英首相チャーチル、ソ連共産党書記長スターリンが会し、戦争処理と戦後体制を協議した。会議は、ドイツの無条件降伏、武装解除、ナチズムの一扫と、フランスを加えた4か国によるドイツの分割占領で合意した。またこの会議では、1944年の 会議で検討されていた国際連合憲章原案に拒否権条項を加えて戦後の国際体制を構築することにも合意した。これを受け、1945年の 会議において国際連合憲章が採択されたことにより、国際連合は発足した。なおこれに関連し、戦後の経済復興に関しては1944年に で開かれた会議において、世界銀行と国際通貨基金が設立されることとなった。日本に関しては、ヤルタの秘密協定でドイツ降伏後のソ連の対日参戦が合意された。しかし、 上陸後にパリを解放したものの、ドイツ本国を攻撃するまでには至っていなかった英米連合軍と、既に東欧に進攻していたソ連との間で対立が生じ、 の西部国境線を画定することはできなかった。

世界史

問4 下線部(4)に関連する次の文章について、空欄 a に入る最も適切な語を下記の語群 A から、空欄ア～サに入る最も適切な語を下記の語群 B から選び、その数字を解答欄にマークせよ。

第2次世界大戦後の冷戦は、1947年に米大統領トルーマンが内戦の起こっていた と、その隣国である への軍事的財政的援助を発表してから始まった。これは、戦争で力を失った の両国への長年の関与を肩代わりするものであった。その前年、チャーチルは、訪問国のアメリカで「バルト海の から 海の まで鉄のカーテンが下ろされている」と言っており、ソ連を非難した。これとともに冷戦を決定づけた要因の一つは、1947年に米国务長官マーシャルが唱えたヨーロッパ経済復興援助計画への、西欧諸国の参加であった。西側の動きに対抗してソ連は、それまでの東側諸国との相対的に緩やかな結びつきをやめて、第2次世界大戦中に廃止された に代わる共産党の国際組織として1947年に を結成し、さらに1949年には経済相互援助組織として を結成するなど、東側陣営の結束をより固いものとした。これに対して英仏は、 で西ヨーロッパ連合条約を締結し、これがその後の北大西洋条約の基盤となった。東側はこれに対抗し、攻撃を受けた国家に軍事力の行使を含む援助を行うとするワルシャワ条約機構を1955年に設立した。こうして米ソを中心にする東西対立が政治・経済・軍事の各分野で形成された。しかし が指導する は、ソ連中心の組織に加わらず、非同盟外交を進めた。

問5 下線部(5)に関連して、1950年代に原爆の実験に初めて成功した国を、a～gのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a アメリカ b イギリス c インド d ソ連
e 中国 f パキスタン g フランス

〔語群A〕

- | | | |
|----------------|-------------|------------|
| 1 アタチュルク | 2 アトリー | 3 イーデン |
| 4 ヴィルヘルム 2世 | 5 ダラディエ | 6 チャウシェスク |
| 7 ティトー | 8 トウルゲーネフ | 9 トロツキー |
| 10 ネヴィル=チェンバレン | | 11 ヒンデンブルク |
| 12 フランコ | 13 フルシチョフ | 14 ペタン |
| 15 ベネシュ | 16 マサリク | 17 ムッソリーニ |
| 18 モロトフ | 19 リッベントロープ | 20 レーニン |

〔語群B〕

- | | | |
|------------|----------------|-------------|
| 1 アドリア | 2 アルバニア | 3 イギリス |
| 4 エストニア | 5 エチオピア | 6 オーストリア |
| 7 ギリシア | 8 コミンテルン | 9 コミンフォルム |
| 10 コメコン | 11 ザール | 12 サンフランシスコ |
| 13 シュテッティン | 14 ダンバートン=オークス | |
| 15 トリエステ | 16 トルコ | 17 ノルマンディー |
| 18 フィンランド | 19 ブリュッセル | 20 ブレトン=ウッズ |
| 21 ポーランド | 22 ユーゴスラヴィア | 23 ラインラント |
| 24 ラトヴィア | 25 リトアニア | |